

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 PETER NICHOLS ピーターニコルス氏

Web-site は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

[I] 北海道猟友会にアルビノ熊を殺さないよう下記要望書を 3月22日午前に専務理事の齊藤哲嗣氏に門崎が会い手渡し、配慮するよう要請しました。これに対し、専務は「解りました」との返答でした。

\* 目下、北海道知事にも、北海道熊研究会として、熊の駆除を自粛するよう要望書を出すべく、準備中です。決まり次第お知らせします(門崎)。

要 望 書

北海道猟友会 殿

平成 25 年 3 月 22 日

北海道熊研究会

代表 農学博士 獣医学修士

門崎 允昭 印

西興部町などで 2012 年に生息が確認されたアルビノ(赤目白毛)熊の保護に関する件

<要望事項>

猟友会加入の諸氏に対し、猟友会としてこの熊を殺さないよう周知を図られたい。

<理由>

昨年(2012 年)、西興部村から滝上町札久留サツクに至る地域で、目(瞳孔)が赤く、鼻先の皮膚(鼻鏡と言う)が黒色で無く、全身白色毛の熊が見られたが、この熊は体表にある黒色素であるメラニン色素を欠いた「アルビノ albino=ラテン語で白の意」の個体で、北海道での熊の確実な事例としては初めてである。過去の記録に「松前志 1781 年」と言う書に、今から 338 年前の延宝 3 年(1675 年)に、「熊の純白のもの出行、其の皮を江府(江戸幕府)に献じたり」と言う記述があるが、その皮は行方不明でアルビノで有ったか否か検証する術がない。従って、今般の事例は確実性から言えば日本での唯一の事象で、遺伝学的にも生態学的にも極めて貴重な個体である。よって、この個体を殺す事が無いよう周知徹底して戴きたい。

## <参考>

### 「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の組織・活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓蒙活動を行う団体として、現在 130 数名の会員で加入している。

この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

### 専務理事との対話で札幌市の熊出没問題がでました。

#### <問い>

・熊と子供や女性が遭遇し熊に襲われたりしたら、困るが、しかし少し騒ぎ過ぎではないかと思うがとの問い。

#### <門崎の答え>

私も同感である。西区西野の熊は2歳過ぎの熊だが、他の地区の市街地に出て来ている熊は、皆2歳未満である。2歳未満の野生の熊が人を襲った事例は、全く無いから、そのことを認識すれば、あれほど、恐怖心を煽るような報道はしないはずだが、姑息な熊研究者なる連中がそれを言わず、調査費を得ようとしている実態がある。例えば、平成24年度の札幌市の熊予算は2,600万円で、うち1,575万円がエンビジョンと言う調査会社に丸投げされ、定山溪の林道奥で餌ぶら下げて熊を誘き寄せ、有刺鉄線で熊の毛を取り、DNA分析などし、出没熊対策とは直接関係ない全く税の無駄使いをしていると言うのが実態である。

## 【II】札幌市への要望

- ① 熊が出没した場合、如何なる熊が何の為に出没しているのか、的確に見極め殺さない方法で対処されたい。出没する熊には必ず目的がある。一昨年(2011年)と昨年(2012年)に、南区や西区の住宅地に頻繁に出て来た熊はいずれも満2歳未満の母から自立させられた若熊が、「住宅地が如何なる所か」好奇心で学習に出て来ていたのであった。2歳未満の熊が、人を襲った事例は過去に無い。故に大騒ぎは慎むべきである。
- ② 「芸術の森の野外美術館」付近に熊が出没したとして、大騒ぎして昨年も幾度か閉園しているが、解決策として、早期に会場を有刺鉄線柵で囲う策をすべきである(国定滝野すずらん公園での事例がある)。
- ③ 熊が住宅地や耕地に出て来た場合、一時的にその場所に電気柵を設置し、再出を予防する対策を講ずること。
- ④ 奥山で熊の毛を取り、DNA鑑定するなどの調査は不要で、市民にも熊にも無益な税の無駄遣いであることを、強く指摘したい。(了)